



緑の地球新聞

第166号

2024年10月5日発行：公益財団法人 緑の地球防衛基金

いま名もない砂漠がふえている
私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203
☎ 03 (3297) 5505 Fax 03 (3297) 5507
URL: <https://green-earth-japan.net/>
e-mail: defense@green.email.ne.jp
郵便振替口座 00110-9-161182 定価 ¥150

特別寄稿 地球環境の現状を考える—OSO18事件に寄せて— 早稲田環境塾塾長 原 剛

アイヌの神は「最凶のヒグマ」か

テレビも新聞も「ウシ66頭を襲った最凶のヒグマOSO18」追跡の特集番組に熱中した。日本の動物文化史上例のない昨夏の大騒動だった。

OSO18は、北海道東の根釧原野で5年間の追跡をかわしていたが、2023年7月30日早朝、釧路町の牧場でパトロール中の町役場職員に射殺された。OSOの肉12キロは地元白糠町の食肉業者を経て東京日本橋人形町のジビエ料理店で料理され、食べ尽くされた。その後も「食べたい！」と注文が殺到したという。その光景は強い拒否感を私にもたらした。

事件現場は、国立公園釧路湿原を含むその北方の丘陵、湿地、沢筋が混在する日本最大面積の根釧(根室、釧路)原野である。かつてのアイヌモシリ(土地)、シマフクロウと熊を最高神とするコタン(集落)が点在していた。

根釧原野を貫流する西別川の流域で土地の人たちが「シマフクロウ百年の森づくり」を始めて31年になる。「緑の地球防衛基金」や国が出

資する「環境保全機構地球環境基金」が「虹別コロカマイの会」による「シマフクロウ百年の森づくり」を支援してきた。OSO18はその植林現場に現れた。

「OSO18」は行政が付けたコードネーム。最初に牛が襲われた標茶町オソベツの地名と残された前足跡の幅が18cmであることに由来する。

近代日本(明治以来の政府・北海道庁)は、アイヌの主食だった(熊の餌でもあった)鮭漁を禁止、熊の生息域である河畔林を乱伐、シマフクロウを放逐し、産業権益ルートに原野開発の利を分配した。政府は棄民同様の北方開拓団を根釧原野に再



暗視カメラがとらえた OSO18

三人植させたが、寒冷地の厳しさに全滅の惨状を繰り返した。東京大空襲の被害都民、満蒙開拓団の失敗移民による入植地での悲劇は、開高健の小説「ロビンソンの末裔」に活写されている。

OSO18に襲われた66頭の乳牛は、莫大な国税をつぎ込んだ国策「大規模草場略農」による、原野の奥に造成された牧野に放牧されていた。

棲家を奪われた熊とシマフクロウは現在辛うじて保護策の対象となり、ほそぼそと生存している。OSO18への追撃はその本来の生息地から追い出された、さ迷えるアイヌの神殺し行為だった。

緑の地球防衛基金の植林現場で

「緑の地球」の会員である筆者は、2012年から事件現場の標茶町で、虹別コロカマイの会による「シマフクロウ百年の森づくり」に加わり、毎年5月にこの土地を訪れてきた。OSO18はその植林現場に現れ、2019年7月16日、標茶町オソベツの原野開拓牧場で、放牧中の乳牛1頭を殺した。その後OSO18は放牧中の乳牛13頭を殺害し、52頭に回復できない深い傷を負わせた。

ハンターのチームが随時パトロールし、大音響の威嚇機を22基設置、罟を仕掛け、電気柵を巡らせ、赤外線カメラ搭載ドローンを飛ばして追

跡しても、OSO18はすべてをかわり続けてきた。

昨年6月12日、標茶町農林課の宮澤匠に先導され、OSO18が出没する現場へ。茶安別から阿歴内へ、アツブダウン急な根釧原野の大空間をたどった。

襲われた放牧場はどこも町の中心から遠い周辺部、遅れて牧草地化された条件不利地にある。地形の起伏が激しく、牧草地に造成できなかった急斜面や川沿いの湿地にはミズナラ、ハンノキ、カシワの厚い森が繁る。一帯は明らかにかつてヒグマの生息領域、アイヌの狩猟場だった。大きく波打つ牧草地の谷間に酪農家の孤屋が潜む。

突然、複数の大型獣の耳をつん裂くすさまじい吠え声。その瞬間、眼下の放牧地に寝そべっていた100頭ほどのホルスタイン乳牛が飛び上がり、一団となって逃げ去った。OSO18を追い払う「防除威嚇機」の絶叫である。牧草の丘の稜線に塔状のその3点セットが据えられ、昼も夜（夜間は強烈な閃光を発する）も15分おきに絶叫し続けていた。

OSO18の足跡をたどりながら、私は次第に空しさともいえるべき感慨に巻き込まれていった。

OSO18はその本来の生活圏から追放され逃走し続ける迷えるアイヌの神に他ならなかった。一方、この開拓最前線で酪農を営む人たちが、

は、いま輸入飼料の高騰と牛乳の需要減により赤字経営に陥り、離農が相次ぐ。命がけてOSO18を追う猟師たちの日当は町の助成金込みで2万円に満たない。そして野生動物行政に対すべき国のワードン（野生動物管理官）は不在である。OSO18は残存する森伝いに逃避行を続けるを得なかった。

OSO18を射殺したのは、早朝、牧野をパトロール中の釧路町職員だった。100メートル先の牧草地に熊を発見、逃げる様子もなく伏せていたので、容易に射殺した。遺体には病状が見られ、本来草食の熊が生息地を狭められ、放牧されていた乳牛を襲い、肉食化し、それが病気を招いたのでは、と研究者は見ている。

森林環境税で人と熊の営みに緩衝地帯を



OSO18の威嚇装置。昼も夜も15分ごとに絶叫し続けた

北海道の人々は好むと好まざるにかかわらず、「実は近くに住んでいるとなりのヒグマ」を意識しながら暮らしていかざるをえない。新聞には連日「熊目撃、遭遇」の記事があふれている。

OSO18は、ヒトと自然との不可分のかかり方の破綻を、ヒト社会に身を以て示したのではないか。

久保俊治（76）は根釧原野きつての「熊撃ち」（久保の著書名）猟師だった。

北海道新聞記者とのインタビューで「人とクマの生息域に境界がなくなったのでは」との問いに、久保は「人間だけが住みやすい、共存」とは、自然環境の搾取と同じこと。クマの餌となるどんぐりが実るナラの木を山に植えて人間と熊の衝突を防ぐことを提案したい」と述べている（2022年7月1日朝刊「聞く語る」）。

OSO18は撃たれた。しかしOSO18が出没した地域では、同じ時期（2019年7月〜2022年8月）に他の熊に襲われて17頭が死亡、28頭が重傷を負った。OSO18事件は熊の住まいだった原生林跡地の牧場で、今後とも起き続けるであろう襲撃事件の予兆である。

2024年5月、根釧原野別海町の中春別町営育成牧場で牛舎内の保育用ケージに熊が侵入、子牛4頭が殺され、4頭が負傷した。現場の酪農家たちは、襲撃の場が牧場の野外

の放牧地から住居に100メートルほどの牛舎内部に及んだことに衝撃を受けている。熊の人家への接近が危惧されるからだ。別海町は箱罾を仕掛けたが、OSO18出現以来、22か所に設置された箱罾には一頭もかかっていない。

OSO18との経験を経て、根釧原野にシマフクロウや熊の生息域、人間の営みとの緩衝地帯に配慮した北海道にふさわしいダイナミックな環境文化が形づくられることを願わざるを得ない。

政府は今年6月森林環境税を導入した。住民税に年1,000円が国税として上乗せされる。人口割で自治体に支給される総額600億円のこの税こそ、環境文化の創造財源に相応しい。

「虹別コロカムイの会」による西別川流域への植林状況を視察するため、この現場を訪れていた大石正光理事長と私は、このことを標茶町の佐藤吉彦町長に伝え、町長は林野行政当局と相談したいと応えた。

かつて神の広大な領域だった根釧原野・原生林に想いを馳せるべき時ではないか。

原剛（はら たけし）

早稲田環境塾塾長、早稲田大学名誉教授、毎日新聞客員編集委員、農業経済学博士、緑の地球防衛基金審議委員会委員。1993年国連グローバル500環境報道賞受賞

(※グリーン・エッジシリーズ)
樹との対話から生涯に想いを馳せ、感謝と命を繋ぐ決意、それが「空師」

最先端の情報をシリーズ物で提供します

■先山師 ↓ 山師 ↓ 空師に

耳にした事がないという人は多いかもしれません。何百年の歴史を持ち、地球を守るために重要な任務を果たしてきた専門職、それが「空師（そらし）」です。全国に数十名ほどしかない「空師」。珍しい仕事の話が聞きたくて、中野区野方に拠点を置く「有限会社 飯田林業」の飯田清隆社長を訪ねました。

江戸時代にこの名称が広がりましたが、この仕事はそれ以前から存在し、森林国の日本で重要な役割を果たしてきました。高木の伐採といえばわかりやすいですが、取材を通して、奥が深く哲学的、かつSDGsと結びつく高質な仕事だと思いつけられました。



飯田社長の近影

当初は「先山師（さきやまし）」という名称で呼ばれていました（場所によります）。山に一番先に入り、木を伐り道を開く仕事から、この名称がつかまりました。他に「杣夫（そまふ）」という名称もあり、木の事を山とも呼んだので、山を育てるという意味でついた名称との事です。

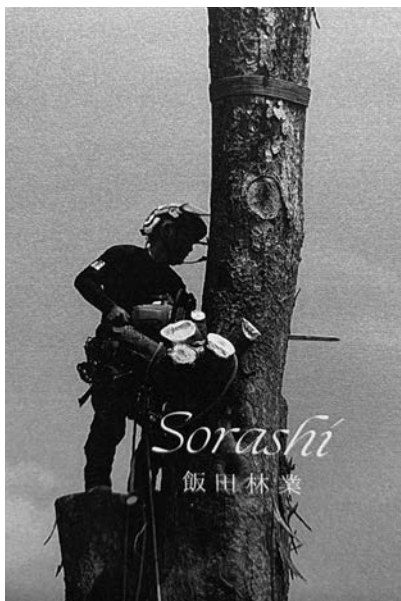
先山師たちが江戸っ子たちと交流するようになって、洒落な江戸っ子が呼びやすい「山師（やまし）」と呼ぶようになりました。木を山とあるので間違いはないのですが、発音が「やましい」と似ているという事で、空に一番近い仕事をする「空師」が使われるようになりました。とはいえ、空師と呼ばれるようになった年代や名付けた人、先山師などの正確な事については不明です。

飯田氏は四代目です。初代の曾祖父は「先山師」をしながら木挽き師として仕事をスタートしました。飯田氏は先代（三代目）の次男として生まれ、小学生の頃から父親について木の伐採を手伝い、空師の仕事を経験しました。高校卒業後、父の会社

に就職しましたが、父と喧嘩して会社を飛び出し、他の会社に就職しました。先代が亡くなったのを機に会社に戻り、以後、父親の仕事を引き継ぎました。外での経験は、視野を広げ、多くの学びや体験を積み上げるのに必要な時間だった、それは父のプレゼントだったと、先代への感謝の気持ちも忘れません。

■樹との対話、樹への感謝、命を繋ぐ

樹木は、自然に任せて放置すれば森林や緑は失われてしまいます。ヒトの手で間伐や伐採などを行って樹木がよい状態で育つように手助けして樹木を生かす、それが空師の仕事です。仕事の場合は、神社仏閣、公園、森林など、多岐にわたります。先代は、皇居の枝下ろしの際、昭和天皇が急に庭に入って来られたので、降りようとしたら『いいよ。気をつけてね。』と声をかけていただいた、世界広しといえども天皇陛下に下か



空師の活動模様

ら言葉をかけていただいたのは自分一人だ、と自慢されていたとの事。貴重な経験です。

高所での仕事なので、命の危険も伴います。単に高木を伐り、空に近い仕事をしている、というだけで「空師」と名乗る仕事人もいるそうですが、飯田氏の考える本当の「空師」は違います。

伐採を決める基準は、その樹が「そろそろお願いします」と、自分を選んで語りかけてくる。その声に耳を傾け、その樹と対話をしながら、その生涯を想像し、長い時間を生きた事に感謝して、次の世代に命を繋ぐから安心して、と語りかける、その対話と意識を持てる人が本当の「空師」と教えていただきました。生きていた証、樹の魂を残すのがわれわれ（空師）の仕事であり、樹に選ばれて伐っているのだ、その熱い語りから、飯田氏の、まごうかたなき理念と空師の真髓が伝わってきました。樹との対話は二代目の教えだそうです。

真の空師を示すエピソードを紹介しましょう。

樹木は、自分の子どもたちを育てながら、自分が倒れる時に子供たちを傷つけないように成長するそうです。樹木の成長の過程を見

るとそれがわかる、親が子を想う気持ちがある、だから伐採する時には、その生涯に敬意を表し、命を次に繋ぐから安心して、と伝え、樹の想いを伐採にも生かすのだそうです。

もう一つは、若い頃、高尾山の高楽寺の紅しだれ桜の治療をした経験です。枯れかけて伐採の運命にあったこの木を生き返らせ、高さ15メートル、幹回り4メートル、葉張り40メートル、樹齢200年超の今でも、毎年、見事なしだれ桜を咲かせています。老木との理由で伐採の運命にあったこの桜を、人間が手を差し伸べた事で自力で生き返った、伐採だけが空師の仕事ではない、という空師の真髓を語っていただきました。

高木の枝や幹を伐採する時、伐採する場所まで上るためにツメは使わない、樹を傷つけないよう縄を使って自力で上るので消耗する。しかしそれが老木に対する敬意でもあるのだと感じました。その成果がわかるのが太い上腕（周囲50cm）です。

伐採後は、樹の社会貢献のお手伝い、即ち、いただいた命の再利用も空師の仕事の一部だそうです。永平寺の樹齢800年とも言われていた大杉の枯れ枝を頂き、15年経った今、数珠を50本作って知人に配り、ご自身も樹の命を身につけ守られていると、樹素材とは思えない美しい色合いの腕輪を見せていただきました。

■空師の認知と後継者育成に向けて

仕事は国内だけにとどまらず、カンボジアのアンコール・トムの巨木の伐採にも参加しました。

直径3メートル、高さ50メートル、葉張り25メートルの巨木（神が宿るといわれる）の伐採です。現地の職人は覚えは早かったのですが、そこで感じた事は、日本の伐採の技術は世界一だけ道具はここでは役に立たない、という事でした。帰国後、道具の開発にも力を注ぐようになり、道具の大切さを学んだそうです。

そうした広がりさらなる進化、研究、空師の社会的認知のために、人材育成・情報発信などの必要性を痛感し、飯田氏のこれからの仕事として、公的な組織づくりを考えていらつしやいます。一人前の空師になるには、10〜15年かかります。1社で育成するよりも、組織的な育成システムを作る事の意味は大きいといえます。後に続く人材育成はもちろん、シニア人材の活用のためにも、団体の立ち上げは有効です。積極的な情報発信にも熱心です。幅広い人脈も持ちの飯田清隆氏ですので、専門職「空師」の団体を立ち上げる夢を何としても応援したいと思いました。

（文責：緑の地球防衛基金福田理事。「有限会社 飯田林業」の飯田清隆社長インタビューを基に執筆。）

たくさんの使用済み切手など
ありがとうございました

使用済み切手等売上表
(6月16日~9月15日)

未使用テレホンカード	0円
未使用/使用済み切手	322,020円
未使用/書き損じハガキ	176,958円
外国コイン&紙幣	0円
合計	498,978円

使用済み切手等協力者

(6月16日~9月15日敬称略)

一柳清美、大西満信、大山昌克、キャンベル有可、榊原静香、渋川文隆、竹村カズイ、田中和子、中野寿人、福田順子、福西邦子、匿名

同法人・団体協力者

(6月16日~9月15日敬称略)

(社)愛知県社会福祉協議会、赤沢産業(株)、池田医院、(株)NSD、王子製紙新労働組合若小牧支部、(有)岡建、(株)甲斐建設、鹿島建設(株)、神奈川少年友の会、喜界町埋蔵文化財センター、(社)北広島市社会福祉協議会、共和食品(株)、ケンマージャパン(株)、(株)ユー、光陽精機(株)つくば工場、(株)M九州FC会、静甲(株)、積水ハウス不動産中部(株)、(社)袖ヶ浦市社会福祉

新入個人会員

(6月16日~9月15日敬称略)

野川勝之、松井信孝

寄付協力者

(6月16日~9月15日敬称略)

荒井俊行、(株)ECC、黒澤一雅、渋川文隆、ジャパン・カインドネス協会、麓孝文、三井住友カード(株)、森口修

事務局からのお願い

全国の皆さま、いつも使用済み切手などをお送り下さりありがとうございます。当基金では、皆さまから送りいただいた「未使用/使用済み切手」「未使用/書き損じハガキ」「外国コイン&紙幣」の売上金を植林活動等に役立てています。引き続き、ご協力をお願いいたします。

協議会ボランティアセンター、「小さな親切」運動愛媛県本部、ちとせ幼保園、東京管理サービス(株)、東京少年友の会立川会、戸田建設(株)、豊田安全衛生マネジメント(株)、中津沖代ライオンズクラブ、西日本シティ銀行職員組合、ニッパツ・メック(株)、日立建機日本労働組合、(株)福井製作所、三越伊勢丹グループ労働組合、明治安田生命保険(相)、ヤマモト木材(有)、郵船商事(株)、リゾートトラスト(株)、和興フィルタテクノロジ(株)